

# TAKESHI KAKEHASHI

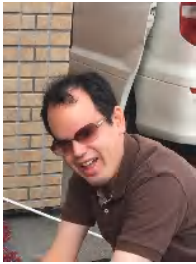


Official fanclub Newsletter No.20



ご挨拶と近況

梯 剛之



空気が澄んで気持ちの良い気候になりました。皆さまにはお変わりなくお元気でお過ごしでしょうか。お陰さまで僕は元気で、今年は海外も幾つかの初めてのところに行ってきた。4月末から6月初めまではオーストリア、一旦戻って8月にロシアに行ってきた。今年はもう一度来る11月にロンドンで演奏する予定です。ずっと一緒に回ってくれた父が、この第20号の会報で、行った先々でのエピソードを披露させていただいているようですから、どんな旅をしているのか、その珍道中のほどをお楽しみいただければ幸いです。

旅の目的はもちろんのことですが演奏活動です。会員の皆さまにはもう馴染みのヴォルフガング・ダヴィッドさんという、ヴァイオリンのパートナーとデュオとして一緒に各地を巡っています。彼と出会って以来、お互いを刺激し合いながら、新たな分野の音楽を創り上げ、演奏活動が出来る幸せを感じています。まだこのデュオを聴かれていない方は、この会報にもお報せがあると思いますが、12月に石川県小松市と東京で演奏しますので是非お越しください(※注)。

子どもに伝えるクラシックの活動もとても順調で、今年は年初からするとこの10月末の札幌開成中等教育学校、12月小松の小学校での活動で、7校への活動が出来ました。子どもたちの素直な感動や不思議に出会うことは僕の活力にもなります。どこに行っても本当に子どもたちは元気で、関係者の皆さまも大変良くしてくださいます。これも皆さまからの情報やご尽力があつてのことだと心から感謝しています。

また、最近では皆さまとなかなか懇親を深めさせていただく機会がなく、残念に思っています。来年2月6日、事務局で演奏と懇親の会を企画してくれているようです。この会報の「事務局便り」にその詳細があると聞いています。楽しい時間を一緒に出来たら嬉しく思います。

この会報が皆さまのお手許に届くころには、札幌に始まる北海道演奏ツアーが終わるころでしょう。札幌、美幌、帯広、釧路と周ります。有り難いことに僕の演奏を聴きつつ北海道を巡るファンクラブの企画ツアーに参加下さる方々も居られ、最後の釧路の演奏後は釧路湿原など、共に北の原野と温泉を楽しませていただこうと思っています。

早いもので、もう一年もあと2カ月程になりました。皆さまのご健勝を心からお祈りします。僕も更に精進して新しい年を迎えられるよう、日々を大事にして参ります。

2015年10月20日

(※注)お陰さまで、小松うららホール・コンサートは既に完売致しました:事務局

## 目次

Page 1

◆ご挨拶 梯 剛之

Page 2-6

◆オーストリア紀行および  
ロシア紀行 梯 孝則

Page 7

◆徹子の部屋クラシック  
松本節子

Page 8

◆山形県米沢市伝国の杜  
コンサート 稲田俊介

Page 9-11

◆任意団体  
子どもに伝えるクラシック  
◇群馬県 新島学園  
上海道竹重

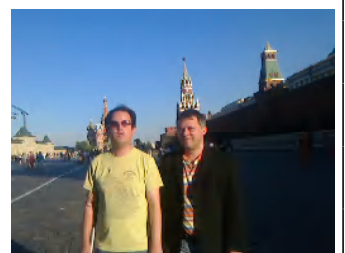
◇八王子市立片倉台  
小学校 野崎晴美

◇米沢市立第4中学校  
稲田俊介

Page 12

◆事務局便り  
2016年2月6日(土)ファン  
クラブ主催、ミニコンサート  
のご案内があります。

別紙:コンサート情報



梯剛之さんは、去る4月末から6月初めまでオーストリアに滞在され、次いで8月にロシアでの演奏の旅に出られました。主目的はこの3年に亘り継続しているヴォルフガング・ダヴィッドさんのヴァイオリンとのデュオ、併せてご自身のソロ演奏ですが、もうひとつ、慣れ親しんだ音楽の都でのご自身の音楽の研鑽と、こころの充電の意味合いも大きいようです。

以下、その移動日程に沿った形で、同道されたお父様（梯孝則氏）からの随筆が届いています。19号から本格的に始めた「日々雑感」に代わって、旅行記としてお二人の海外での動きが窺える文章をお楽しみください。

#### ♪4月24日 楽友協会のコンサート（4月25日記）

剛之のウィーンにおける重要な支援者にペトラさんという敷石敷設会社の社長がいらっしゃる。この方は元日経新聞記者の小笠原氏の奥様だった人でもある。だったというのは小笠原氏が若くしてすでに亡くなってしまっているからだ。皆からこよなく愛され、ブルックナーと白ワインをこよなく愛した小笠原氏のことはその傑作逸話の一部をそのうちチョロチョロと書きたいと思っている。ペトラさんは小柄な可愛らしい人なのだが、ウィーンのオペラ座の前のビルに店を構え、むくつけき大男たちを相手に指示を与えている女丈夫でもある。最近は外国にまで仕事の範囲を広げ、超多忙になっている様子でちょっと身体のことを心配だ。楽友協会の古くからの会員でもあるので、剛之がウィーンに行くと楽友協会ホール（ムジークヘライン）で行われる垂涎のコンサートに招待してくれる。



楽友協会ホール（黄金の間）

昨夜もリッカルド・ムーティー指揮ウィーンフィルでシューベルトの「ザ・グレート」を聴かせてもらって何度も天国と地上を昇り降りさせてもらった。演奏が終わるとブラボーの爆発で楽員が退場後も拍手が鳴りやまず、再度ムーティーが無人の舞台に戻されるといふ場面に、朝比奈隆指揮N響のブルックナーが思い出され、日本の専売特許ではないんだと気付かされた。31歳でひっそりとこの世を去ったシューベルトはどんな思いであの世からこの状況を見ているだろうとふと思ったら、また熱い思いが込み上げてきた。

#### ♪5月17日 シュロース・ニーダーヘラブルン（5月18日記）



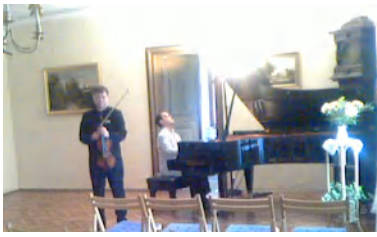
昨日（16日）ウィーンから車で高速を使ってプラーハ方向に45分くらい行ったニーダーヘラブルンにあるシュロース・ニーダーヘラブルンで今回の演奏旅行2回目のコンサートがありました。

シュロースは日本語に訳すとお城なので要塞堅固な中世の映画に出て来ようなお城を想像して行ったら、左の写真のような古めかしい普通の家でした。息子の、のぶやに聞いたら僕が想像したようなお城はブルクで、シュロースは宮廷、お屋敷と訳すとより正確なのだわかりました。

そこに着くまでの周りの景色はなだらかな牧草地が広がる中にぽつん、ぽつんと村があるという感じで実にごどかな気持ちになります。

シュロース・ニーダーヘラブルンの主催者でもある館の主に聞いたら、400年前に建てられた建物で直系の子孫はすでに亡くなった奥さまだそうで、部屋の数は、これも聴けば正確にはわからないが20以上はあるだろうという返事でした。掃除をするのも大変でしょうと言ったら、夜中にも掃除しているという返事が返って

きました。昔からコンサートが続けておられるお宅のようで、シェーンベルクも来たことがあるという話にはびっくりです。



演奏は1回目のクラウスさんの家でのホームコンサートよりずうっとミスタッチも少なく、よい出来でした。こんなにきれいな音は初めて聴いたと口々に言われ、剛之も満足そうでした。ただずうっと聴き続けている僕からみるとダヴィッドさんが要求するテンポが早く、カーレースを観戦している気持ちになります。剛之も果敢に挑戦していますが本番になるとより興奮してより早くなり、ハラハラ

ドキドキ遂に自滅するという場面も多々あります。でも聴いているほうも興奮させられるテンポではあります。鳴り止まない拍手に用意したアンコールを3曲弾いて終わりました。

その後、中庭でお客様や主催者の娘さんやお孫さんやひ孫さんも交えて例の如くパーティーがありました。これだけ広い家なので一族の人々はここに住んでいるのだらうと思ったら、こういう時にだけ手伝いに来ていて、終われば、皆さんは家族と住んでいるウィーンに戻るといって話で、ご主人はどうもこの広いお屋敷に一人で住んでおられる様子でした。



話は変わりますが、こちらに住んでみると日本と違うことに驚かされます。例えば今回を例にお話ししましょう。最寄り駅のグライフェンシュタインからSバーンという国営の電車でハイリゲンシュタットまで20分弱、ここで地下鉄に乗り換えて中心に向かうというのが通常のルートなのですがこのSバーンが工事という名目でよく不通になるのです。14～17日まで4日間、不通になって代行バスが運行されました。ハイリゲンシュタットまで運行してくれれば難なく地下鉄に乗り換えられて問題ないのですが、ハイリゲンシュタットの二つ手前のクロースターノイブルク・バイドリンク駅までしか行かなくて、そこからSバーンに乗り換えなくては行けないのです。この



代行バスが大変な代物でよく遅れる。それなのに連絡するはずのSバーンは待ってくれないでさっさと定刻どおりに出発してしまう。Sバーンは土、日は1時間に1本なので、しょうがなくまたハイリゲンシュタット行きのバスを待つのですが、土曜日のダヴィッドさん宅の練習の時に、その憂き目に遭い遅刻しました。

ハイリゲンシュタットのバス

翌日がニーダーヘラブルンの本番の日で会場までペトラさん(元日経新聞記者の故小笠原氏の奥さんと敷石会社の女社長)の会社の従業員の人が車でハイリゲンシュタットで待ち合わせして送ってくれることになりました。バスが遅れる可能性もあるので一台前のバスにと、日本では考えるところですが、1台前は1時間前になるので、喫茶店とかもないところで一時間待つのも辛しいし、バスがうまく電車に連絡することを念じつつグライフェンシュタインでバスを待ちました。しかしやはり5分遅れでバスが来た、黒雲のように不安が沸き起こってきました。いよいよ乗り換え駅に着くころには、電車の発車に間に合うかどうか微妙な時間になっていて、何ごともないよにと祈るような気持ちになったその時、公園のほうから馬に乗ったおばさんが横断しようとしてバスの通過を待っているのが見えました。その時日本では考えられないようなことが起こったのです。バスの運転手がにこやかにお先にどうぞと合図したのです。その馬は道を横断してくれると思いきや、バスを先導するような形で前をパカパカ歩きだしたではありませんか。あいにく対向車線は車が続き追いつきもできず、バスは馬の後をしずしずと徐行します。その時間の長く感じたこと！結果としては駅の階段を駆け上って息を切らせながらも滑り込みセーフでめでたしめでたし！無事に約束の時間に間に合いました。

## お皿 (5月29日記)



こちらに来てからの剛之は午後の散歩の時にドナウ川の入り江に浮かぶ、ボートの船着き場を兼ねたレストランでコーヒーを飲みながら波の音、小鳥の鳴き声、お客の会話を聞いて過ごすのを一番の楽しみにしている。

その店の主人は若い時アフリカで生活したという僕と同じ年齢(71歳)と自称する愉快的オヤジで店の仕事はお客とだべることと心得ているようで、いつ行っても必ずお客と世間話をしている。このあいだは「この人は漁師だよ」とお客を紹介されて、すっかり真に受けてドナウ川はそれで生業が成り立つほど魚が獲れるんだ!と妙に感心していたらなんのことはない、その店のすぐ脇で日傘をさしながら釣糸を垂れている太公望だった。違う日に行ったらその主人いわく、「魚釣りはウソつきが多い!!10センチの魚を50センチの魚が釣れたと言う」とジェスチャーを交えながら冗談を言っていたので東西共通なんだなあ嬉しくなった。その店オススメのデザートが剛之が注文したら、クリームとチョコとケーキが山盛りになった代物が出てきて、一人で食べたら即、検査結果に影響するという量だ。剛之のためを思って僕が脇からその山を突き崩す作業を手伝った。実際は僕にとっても毒なのだが、それ以来剛之がそれを注文すると相伴にあずかっている。最後にチョコレートが皿に残るので、さすがになめはしなかったが丁寧にスプーンですくっていたら、女主人に「洗わなくてすんで助かるわ」と冗談を言われてしまった。

## ♪ヤバイ!! (5月28日記)

こちらの滞在も、あと数日になりました。今回は40日と長かったので、こちらの生活にも慣れて、ここでずうっと生活しろと言われてもできるような気になってきていましたが、こういう慣れ始めの時期が一番危ないと痛感させられる失敗を昨日と今日2日続けてやってしまいました。



こちらの交通機関を利用する時、61歳以上の人が利用できるフオアマイルスカードを購入しておくとは大幅に割引があるとわかり、僕だけではとても購入手続きができないので、長男の「のぶや」と駅で待ち合わせすることにしました。電話でやりとりしたのですが「ハウプトバーンホーフ」(主要駅)と言われたのにいつの間にか「ウィーンミット」(ウィーン中央駅)と思い込んで違う駅に行ってしまいました。のぶやを少し待たせただけで、完成したばかりのウィーンミット駅を探索できて実害はなかったのですが、今日のミスには肝が冷えました。



今日はイタリア国境の村に行くためにダヴィッドさんとマイドリンク駅で待ち合わせすることにしており、今回は3度目の待ち合わせなので「ああ知ってる、知ってる知ってる。いつもの場所ね。地下の切符売り場の前ね」と余裕を見せていたのですが、いざ本番の今日、最寄り駅からのSバーンをプラッテラウ駅でU6(地下鉄)に乗り換えたあたりで駅名がウエストバーンホーフ(西駅、ここは昨年ミュンヘン近郊のホテルで演奏した時の発着駅)にスレ代わって降りてしまい、地下の連絡通路で約束の場所に行こうとしたけど様子が変わってそれらしい場所が見当たりません。ああこれは駅舎が改築されたんだなと勝手に解釈して、時間もあることだし、お店でパンとコーヒーでも食べて、その後に店員に切符売り場を聞けばいいやとのんびりと過ごしていました。いざ店員に教えてもらった切符売り場の場所に来て、この駅はミュンヘンに行く時に使った駅で約束の駅とは違うと気がついたその時の驚愕と混乱!! あれほど平常心を保つために、ヨガ、座禅と修業を続けた努力も泡と消え、剛之を引きずるようにして息せききってダヴィッドさんの待つ駅に向かいました。なんとか時間に間に合う時間にたどり着けて、またも最後はめでたしめでたしの話で終わることができましたが、本当に危ない領域に入ってきました。

♪ロシアへの旅のはじまり。 プラターのゴンドラ (8月7日記)

今年2度目のウィーンです。こちらの日中は強烈な日差しで日陰を探して歩きますが、日陰に入ると湿度が低いので爽やかな暑さです。夜はぐっと気温が下がるのでよく眠れます。これが一番ありがたい。毎日ダヴィッドさんとデュオの練習をしていますが、彼はだんだん演奏活動が忙しくなっているようで、すごい勢いで練習していてそのスタミナに感心します。



昨夜はペトラさんの招待で、プラターの観覧車のゴンドラの中にテーブルをしつらえ、10人ほどで食事ができるようにしたところでバースデーの食事会がありました。誕生日が剛之2日、ペトラさん4日、僕6日ということで一緒に祝ってもらいました。出席者は剛之、僕、剛之の兄、ダヴィッドさん、ペトラさんの知人の二組の夫婦、1人の男性の計10人でした。ウィーンの夜景を見ながらコース料理を楽しむという贅沢をさせてもらいました。

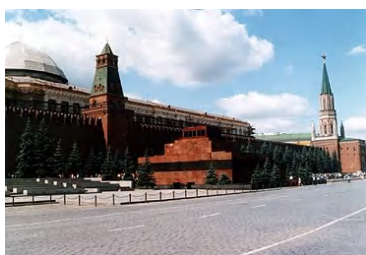
♪モスクワ音楽院—その1 (8月8日記)



愈々ロシアです。モスクワ音楽院(正式名称“チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院)でのコンサートのためにモスクワに来ています。音楽学校に隣接するカジュアルなホテルに泊まっているので盛んに学生さんがピアノを練習しているのが聞こえます。音楽学校の前の道路は大工事していて一体何処を歩いたら良いんだという状態ですが学校の中でも大工事していて此処にいるとロシア中が工事しているような気持ちになります。

おかげで当初聞かされていた、学内のラフマニノフホールではなくもっと小さいミヤコフスキーホールになってしまいがっかりです。

♪モスクワ音楽院—その2 (8月9日記)



モスクワ 赤の広場

滞在中のモスクワのホテルにはレストランがないので、朝は近くの喫茶店に、昼は音楽院の学生食堂に食べに行くが、夜だけは随伴と一緒に行動してくれているペトラさんのおごりで豪華に赤の広場脇のカフェレストランで食事をしている。観光の目玉の赤の広場脇にあるだけに値段も高いが味も最高！昔N響の演奏旅行でペテルブルクのホテルの朝食は世界一だと思ったことがあったけど、ロシア人の味に対する感性はとてよい。夜

になって涼くなったそよ風に吹かれながらゆっくり時間をかけて食事するのは至福の一時だ。脂肪肝の心配のある剛之に、最近、厳しい食事制限をしているが、今回の旅行中だけは特別に制限解除している。

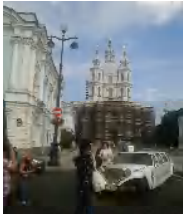


【Wikipediaより】モスクワ音楽院は、ロシア国内の音楽教育機関としては最高の権威を持つ。[1866年ニコライ・ルビンシテイン](#) (1862年に[サンクトペテルブルク音楽院](#)を創設した[アントン・ルビンシテイン](#)の弟) によって創設される。[1878年チャイコフスキー](#)は同音楽院の作曲科教授を務めており、[1940年](#)チャイコフスキー生誕100周年を記念して現在の正式名称となった。

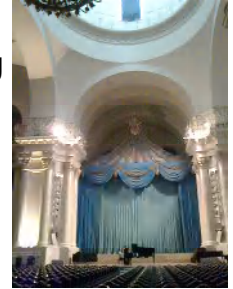
## ♪ペテルブルクの会場 スモーリヌイ聖堂（8月12日記）



ペテルブルクの会場はモスクワの会場とあらゆる面で真反対の会場です。最初のダヴィッドさんからの情報ではロシア皇帝の夏の離宮の広間と聞き、さぞかし雰囲気のあるところだろうと楽しみにしていたら、実際は市内の大きなカテドラルを演奏会場としてソ連時代に使いだしたと思われるところでした。あまりに巨大なので音が拡散してしまい、最初は遠く離れたところから聴いている感じで、音響的には最悪だと思いました。それでもしばらく聴いていたら、だんだんこちらの耳が慣れてきて、最悪ではなくあまりよくないぐらいになってきました。お客さんが入るとまた変わるのでよいほうに変化してほしいものです。



休憩時間に外に出てみると、カップルが結婚式を終え車に乗るところに出くわしたので、遠景の会場のカテドラルと一緒にカメラに収めました。例のごとくこのカテドラルも工事中でした。



舞台上の梯さんとダヴィッドさんを見ると、この聖堂が如何に大きいかが良くわかる

## ♪ロシアでの演奏と反応（8月13日）

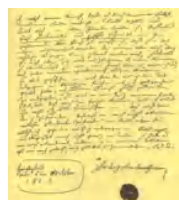
ペテルブルクでの演奏会がようやく終わりました。結果は思った以上の大盛り上がりでした。最後はスタンディングオーベーションと足を踏み鳴らしての拍手でした。ダヴィッドさんはペテルブルクは2年前にカルテットで来て2回目だそうでモスクワの聴衆は音楽のわかるよい聴衆でペテルブルクの聴衆はあまりよくないというようなことを事前に言っていたのですが、今回は反対の結果でした。彼に言わせるとペテルブルクの聴衆は批判的な反応が多く今回のような反応はまれだそうです。一番後ろの席で聴いていた僕からはピアノの音があまりにも聴こえてこない会場の音響で本当に残念だったのですが、聴衆の反応はよかったので安心しました。

1曲目のベートーヴェンのソナタの1楽章が終わったところでダヴィッドさんが大見得を切ったら、ワツと拍手がきてそれからは毎楽章終わるごとに拍手で、二人は困ったような感じでしたが、すべて拍手するのかなと思ったら静かに終わる楽章で拍手しづらい時は拍手がこなかったもので、どうやら単純に拍手したい時に拍手するということだったようでした。剛之も回を追うごとに悪い条件でもたくましくこなしていく力を身につけてきたようで、頼もしくなってきました。



写真は本番直前にその夜に放送するテレビ番組のためにインタビューを受けているところで、日本では本番の直前など考えられません。

**梯孝則PROFILE** 1962年国立音楽大学入学、1977年N響入団。2003年N響定年。現在は「古典音楽協会」「アカンサスⅡ」「N響団友オーケストラ」各団員として音楽活動を継続している。♪♪♪♪♪♪♪♪♪



P3の記事にあるハイリゲンシュタットはベートーヴェンが甥のカールと弟のヨハン宛てに遺書を書いたことでも知られ、それは「ハイリゲンシュタットの遺書」と呼ばれています。



## 山形県米沢市 伝国の杜 置賜文化ホールでのリサイタル

稲田 俊介



10月1日 山形県米沢市 伝国の杜 置賜文化ホール

10月1日、山形県米沢市伝国の杜ホールで、梯さんのピアノリサイタルがありました。このリサイタルは、来年設立90周年を迎える米沢信用金庫理事長で、当ファンクラブ会長の加藤秀明さんが、特に米沢の方々に向けて企画されたものでした。

当日は、爆弾低気圧襲来で大雨・強風という悪天候の中、定員500名の会場に本当にたくさんのお客さんが来てくれました。リサイタルは、前半はギターデュオのフリーバーズ、そして後半が剛之さんのピアノソロ。フリーバーズは、ギタリスト伊東福雄さんと篠原正志さんが結成したコンビで、軽快なトークと耳なじみの曲で大いに会場を盛り上げてくれました。

ちなみに、伊東福雄さんは、以前、当会報で剛之さんと対談していただいたので、ご存じの方もおいでかと思いますが、実は、加藤会長が大学時代にプロのギター奏者を夢見ていた時に師事していた先生でもありません。しかし加藤会長はそんな尊敬すべき師に対し、「出来の良い生徒と出来の悪い先生」などと冗談を言っていました。40年以上も続く信頼関係は素晴らしいですね。



置賜文化ホール

リサイタルに話を戻し、、、後半の剛之さんのピアノ独奏ですが、プログラムは、モーツァルト幻想曲に始まり、シューベルトのピアノソナタ(イ長調)D664、ショパンの子守歌次いで英雄ポロネーズで、アンコールはショパンのノクターン遺作。

特筆すべきはやはりシューベルトのピアノソナタです。自然に囲まれた米沢市の気候と空気がどことなくウィーン郊外の雰囲気をおぼえ、その昔シューベルトが馬車に乗って友人らと音楽小旅行に出かけた、そんなイメージを連想させてくれました。シューベルトを演奏する上で最も大切なことは、一瞬一瞬に消えていくはかなさや孤独感、そんな中にも小さな喜びだったり優しさが感じられることだと個人的に思うのですが、剛之さんの演奏からは、まさにそういった感じがひしひしと伝わってきました。

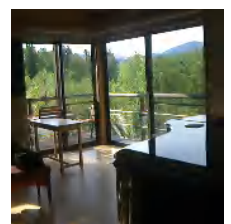
また、リズムの取り方やうたいまわしも本当に自然で、例えば少し単純ですが、ブラジルの人がサンバのリズムを体内に持っているように、剛之さんも長い間ウィーンに住み、まさに体内に染み込んだ感覚が鼓動を打っているように思いました。なんだか、米沢は米沢牛よりもシューベルトというイメージが勝手に出来上がってしまいましたが、リサイタルは大成功で、お客さまも皆さん笑顔で会場を後にしていました。



練習中の梯剛之さん

なお、来年は、同じ米沢で7月1日に剛之さんのソロリサイタルとして開催される予定で、ファンクラブでもチケットのご案内をさせていただくことになっております。

ところで今回の公演中、剛之さんとお父様は、加藤会長の別荘に滞在されていたのですが、なんとそこにはベーゼンドルファーがあり、剛之さんはうれしそうに練習していました。



もう一つ楽しいエピソードを。この別荘は米沢市内から車で20分ほどの山の中にあるのですが、キツネ、タヌキ、サル、野生になってしまったネコなどたくさんの動物が遊びに来るそうです。そして加藤会長が精魂込めて作った畑の野菜をおいしく召し上がっていかれる(笑)ということです。



## 子どもに伝えるクラシック 活動報告

### ♡2015年上半期に実施された活動♡

2015年08月 31日 群馬県 新島中学校・高等学校  
 2015年09月 17日 東京都八王子市立 片倉台小学校  
 2015年10月 02日 山形県 米沢市立第4中学校

### ♡10月20日現在予定されている今年度の活動♡

2015年10月 23日 北海道札幌市 開成中等教育学校  
 2015年12月 09日 石川県小松市立 蘆城小学校  
 2016年 春以降 現在2校が決まっています。詳細は次号でお知らせします

### § 新島学園中学校・高等学校 §

### 上海道 竹重

活動日：2015年8月31日

演奏曲：モーツァルト・幻想曲ニ短調・トルコ行進曲(ピアノソナタK. 331 第3楽章)  
 バッハ・主よ人の望みよ喜びよ / シューマン・子供の情景  
 シェーンベルク・6つの作品 / ショパン・英雄ポロネーズ

8月31日(月)新島学園中学校 高等学校において「新島学園サマーコンサート」が開催されました。

剛之さんのお父様の生徒さんが、学園の関係者というご縁があり、今年は同志社大学創立140周年を記念する「同志社フェアin安中」が前日に開催され、続いて翌日、毎年学園主催で開催される安中市民の方々もご招待し、共にクラシックを楽しむという「サマーコンサート」(今年は生徒さん・学校関係者のみ)に梯さんが招聘されたのです。



同学園は同志社大学を創立された新島襄先生の父祖の地である群馬県安中市に1947年5月に設立された立派な礼拝堂を擁するキリスト教精神に基いた男女共学校です。中学校、高等学校それぞれ630名以上の生徒さんが、安中市、高崎市の近隣はもとより、隣接する長野県の小諸、軽井沢方面からもスクールバスで通っています。

活動は、岩間校長先生はじめ、同校の事務長をされている小林様と、数か月前から子どもに伝えるクラシック事務局との間で、入念にメールや電話での打ち合わせが行われ、その内容は私たちスタッフも同時に情報を共有する形で進行してきました。



イベント日程の関係で、私は30日(日)朝8時から調律、ピアノは同窓会から寄贈されたというスタインウェイのD型です(素晴らしい!)。剛之さんのお父様がN響時代に一緒にあったチェロ奏者の茂木様と同窓の神戸先生が、昨年まで音楽科の教師をされていて、パイプオルガンやピアノの管理をされていたそうで、その熱心な管理のおかげでピアノの保管庫がない状態にしては、コンディションは信じられないくらいよい状態。これなら剛之さんも喜んでくださると思うと調律の仕事に熱が入ります。

31日(月)いよいよ演奏当日、10時過ぎから中学生対象のコンサート、休憩を挟んで12時過ぎから高校生対象のコンサート、それぞれ600名以上の生徒さんに保護者をはじめ関係者の皆さんが加わり、会場はほぼ満員。生徒さんの音楽を聴く姿勢がとてもよく、熱心に耳を傾けて聴く姿が印象的でした。剛之さんも、特にバッハの演奏ではパイプオルガンのように弾きたかったが、礼拝堂の響きがそれを可能にしてくれたと満足げでした。退場する際に何人かがステージの剛之さんのところに駆け寄って、いろいろ質問していたようです。

今回の活動は学校と事務局、先生方とスタッフの見事なまでの誠実な思いやりと実行力が結実した素晴らしいコンサートだったと思います。岩間校長先生がご家族に話されたという「全てのすべてが素晴らしかった」というエピソードは、剛之さんをはじめ私たちスタッフにとって、何よりも今後の励みになるお話でした。

後日談になりますが、9月に入ったある日のこと、新島学園の岩間校長先生から事務局の星田さんに電話がかかってきました。「来年の同じ時期に、またコンサートをやってもらえませんか?」と・・・、うれしい限りです。

§ 八王子市立片倉台小学校 §

野崎 晴美

活動日:2015年9月17日

【演奏曲】モーツァルト・トルコ行進曲／ショパン・ノクターンop9-2／

シューベルト・楽興の時 op94-3／ショパン・英雄ポロネーズ

梯さんの伴奏で: <ゆかいに歩けば> 斉唱 <君をのせて> 二部合唱



山中重夫前事務局長のお世話で、今年は1月に、剛之さんの母校、八王子市立中山小学校、次いで9月、同じ地区にある八王子市立片倉台小学校で「子どもに伝えるクラシック」が実現しました！中山小と片倉台小とは近かったのも、いろいろな行事を合同で行なったことを剛之さんは覚えていらして、「まるで昨日のことにように思い出します」と懐かしそうに片倉台小の子どもたちの前で話していました。

9月17日は、最初の片倉台小の山崎富子校長先生のお話の後、以前DVD制作委員会が全国の学校に配布したDVDが映し出され、ベーゼンドルファーを弾く剛之さんの映像とともに、小学校の時の思い出や子どもたちへのメッセージを綴った剛之さんの文章の朗読が流れました。そして割れるような拍手の中、剛之さんの入場、挨拶のあと演奏が始まりました。1曲ずつ、親しみをこめた丁寧な説明の後での演奏に、子どもたちは剛之さんを身近に感じつつ、静かに集中して聴きっていました。子どもたちからたくさん手が上がった質問コーナーの後、剛之さんの伴奏に合わせて子どもたちの歌が披露されました。純粋で生き生きとした歌声が会場いっぱいに響きわたり、感動の一場面となりました。「梯さんのピアノ演奏が子どもたちの心をひきつけ、すばらしい歌声となって響いたのでは……」と高橋伸吉副校長先生が熱っぽく話してくださいました。アンコール曲はシューベルト・即興曲第3番でした。



最後に代表委員会の児童から感謝の言葉と花束が贈られ、学年ごとに剛之さんと記念写真を撮り、なごやかな雰囲気の中でコンサートは幕となりました。

今回は最初のDVD映写から最後の記念撮影まで、校長先生や副校長先生のもと、剛之さんのことを子どもたちに心から伝えたいと思って準備して下さった、音楽専科の間(はざま)敦子先生の熱心なお気持ちが生かされてきました。帰り支度をした1年生が5、6人、昇降口から出てきましたので、「どうだった？」と聞いてみました。口々に「すごかった！！」…この1年生のことばと写真撮影のときの剛之さんの素敵な笑顔が、この日のすべてを語っていました。

片倉台小学校だより(右)に、活動の記事が掲載されました

※右記事内容を転記します(事務局)

9月17日(木)、世界的に活躍されている盲目のピアニスト「梯剛之さん」をお招きし、40周年記念ピアノコンサートを行いました。保護者、地域の方々112名、そして全校児童、教職員合わせて418名が、梯さんの弾くピアノの音色に魅了されたひと時となりました。前日には専属のスタッフによるピアノ調律が入念に行われ、すばらしい環境を整えてくださいました。そして当日、梯さんの奏でるピアノの旋律の美しさ、繊細な響き、時には力強い響きに心から感動し、梯さんの優しさ、そしてたゆまない努力の姿勢を感じ取ることができました。

質問コーナーでのユーモアあふれる梯さんのトークからも梯さんの人柄の温かさを感じました。プログラムの後半、梯さんの伴奏にのせて「ゆかいに歩けば」「君をのせて」を子どもたちが合唱した場面では、目頭を熱くしている会場の皆さんの姿がたくさんありました。子どもたちの忘れられない一生の宝物になったことと思います。このピアノ伴奏も、一か月前にCDをお渡しし、この日に向けてすべて耳で聴いて練習してきてくださったのです。梯さんもこの歌声の素晴らしさに感動し、最後にはアンコール曲としてシューベルトの即興曲第3番という美しい曲をプレゼントしてくださいました。

40周年という節目に子供たちの心に残るこのようなコンサートを行うことができました。関係したすべての方々へ心より感謝申し上げます。



§ 米沢市立 米沢第4中学校 §

稲田 俊介



活動日: 2015年10月2日(金)  
 演奏曲: モーツァルト／幻想曲、  
 シューベルト／楽興の時第3番  
 ショパン／ノクターン第2番、英雄ポロネーズ

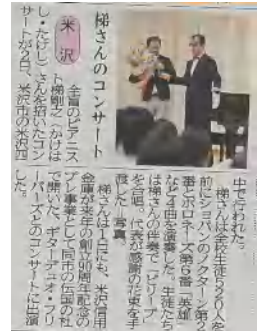
2015年10月2日、山形県米沢市第四中学校[生徒数510名)にて、子どもに伝えるクラシック学校訪問コンサートが行われました。

今回のコンサートは当ファンクラブの加藤会長が理事長を務める米沢信用金庫の地域文化貢献活動の一環として信用金庫主催、子どもに伝えるクラシック協力のもと行われたものです。

コンサートの内容をお伝えする前に、米沢市立第四中学校について少しお話したいと思います。2011年3月11日に発生した東日本大震災は、米沢市にも大きな被害を及ぼしました。それは第四中学校も例外ではありませんでした。震災後の耐震性検査で、校舎使用不可という厳しい現実を突きつけられ、第四中学校はグラウンドにプレハブの仮校舎を建て、体育の時間はバスで市民運動公園へ移動するなど、長い間不自由な学校生活を余儀なくされました。そして漸く、今年2015年3月、待ちに待った新校舎が完成しました。新しい校舎は日の光がふんだんに入る温かい校舎です。

コンサート当日、剛之さんが学校に到着すると生徒たちは元気すぎるくらい大きな声で出迎えてくれました。設置されたばかりのピアノが剛之さんに奏でられ、できたばかりの体育館いっぱいに響き渡りました。

演奏後は恒例の質問コーナー。音楽だけでなく、留学時代の話も交え、ヨーロッパ、そしてウィーンの街の様子などに、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。また、中学生ということで、ドイツ語の簡単な挨拶を学んでもらおうと、ドイツ語ミニレッスンも行いました。そして最後は剛之さんの伴奏による全体合唱「ビリーブ」。生徒たちの歌声には、この新校舎で未来に向かって突き進む、そんな意気込みが感じられました。



【山形新聞記事】



【米沢新聞記事】

♥♥子どもに伝えるクラシック事務局より♥♥

子どもに伝えるクラシックHPには、自主活動の都度、動画をUPしています。

<http://classic-for-children.org/>

この活動は、主として学校や被災地でのコンサート活動を軸とし、梯さんご自身のピアノ演奏に、演奏曲の作曲家とその生きた時代、作曲家の想いなどを語ります。それらを通し、梯さんの人生にじかに触れることで、勇気や感動を感じて頂いたり、クラシック音楽をより識るきっかけとなれば、と願っております。会員の皆さまの母校やご関係先など、希望される学校がありましたら是非お気軽に下記事務局までご相談ください。事務局 Mail: info@classic for Children

HP上で活動資金へのご寄附呼びかけをしております。ご支援頂けましたら幸いです。

♥この団体は非営利活動任意団体です♥

♥ファンクラブ会費と共にご支援を頂戴した会員様、HPをご覧になりご支援いただきました皆さま♥  
 この誌上を借りてで改めて御礼申し上げます

## 事務局便り



## 《最新CDリリースのお知らせ》

2015年2月21日 JTホールに於ける、ヴォルフガング・ダヴィッドとのデュオ・リサイタル2015 のライブCDが発売されます。

◇発売日:12月1日(予定)

◇収録曲目:ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第6番 イ長調 作品30-1、  
ヴァイオリン・ソナタ第8番 ト長調 作品30-3

フランク:ヴァイオリン/ソナタ イ長調

SONARE1030 ¥2,400(税抜き) ¥2,592(8%税込み)⇒ファンクラブでは割引(2400円送料込)でお分けします。  
会員の方は梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-MAIL [takeshikakehashiofc@gmail.com](mailto:takeshikakehashiofc@gmail.com)

☎電話:090-6448-9324 FAX:03-3421-9772

※CDに就いてのお問い合わせ:ソナーレ・アートオフィス 電話:03-5754-3102 ファックス:03-5754-3103

[info@sonare-art-office.co.jp](mailto:info@sonare-art-office.co.jp)



## 《梯剛之ファンクラブ 懇親コンサートを開催します》

なかなか皆さまとの懇親の機会が得られない昨今の状況から、梯さんご本人と、皆さまのご要望を受け、梯さんの演奏に触れ、これまで10年間事務局を運営し、支えて来られた関係者の方々にも共に感謝の想いをお伝えしつつ、新たにお迎えした会員の方々とも懇親の機会を、と企画致しました。場所の関係で、定員が関係者を除いて40名です。長く梯さんをご支援されている方はもとより、新たに会員となられた方もご参加頂ければ幸いです。



◇開催日時:2016年2月6日(土)15:00~演奏1時間/16:00~懇親会

◇開催場所:タカギクラヴィア 松濤サロン <http://takagiklavier.com/salon.html>

所在地は東京・渋谷です。懇親会は同サロンに付随するカフェにて開催致します。

◇会費:5,000円(演奏会及び立食懇親会)

◇申し込み:梯剛之オフィシャルファンクラブ事務局

E-mail: [takeshikakehashiofc@gmail.com](mailto:takeshikakehashiofc@gmail.com)

☎090-6448-9324 FAX:03-3421-9772



## 《梯剛之公式HPを整備するためのご支援を募っています》

事務局では、現在コンサート情報を掲載している“梯剛之公式HP”の画面整備を図りたいと考えて居ります。どのような形でもご支援をお考えいただける方は、下記事務局までご連絡いただければ有り難く存じます。

編集発行 2015年10月20日

梯剛之オフィシャルファンクラブ事務局

発行人 稲田 俊介

編集人 星田 啓子 原稿整理・校正 松本 節子

〒214-0038 神奈川県川崎市多摩区生田6-10-8-202

E-mail: [takeshikakehashiofc@gmail.com](mailto:takeshikakehashiofc@gmail.com)

電話:090-6448-9324 FAX:03-3421-9772

協力:米沢信用金庫/ NPO 子どもに伝えるクラシック

八王子六つ星会(点字作成)

古家峰子/上海道洋子



## “子どもに伝えるクラシック”

下記のwebで活動状況更新をしています  
<http://classic-for-children.org/>

梯剛之公式HPもご覧ください。

<http://kakehashi-takeshi.com/JA/index.html>